

授業科目	健康臨床心理学						実務家教員担当科目	-			
単位	2	履修	選択	開講年次	4		開講時期	前期			
担当教員	水貝 洵子										
授業概要	健康臨床心理学は、ひとの身体と心の健康に関する心理学知識や心理学支援についての学問である。 授業の前半では、身体と心の密接な関係性を踏まえたうえで、ストレスを捉えなおし、ストレスが心身に及ぼす影響についてやストレスマネジメント方法について学習する。 授業の後半は、身体疾患や身体的不調を抱える人を対象とした主に医療領域における心理支援について学習する。										
授業形態	対面授業				授業方法	ディスカッション グループワーク					
学生が達成すべき行動目標											
標準的 レベル	1. 身体と心の両面から人々の健康を捉えることができる。 2. 身体と心の密接なつながりについて説明することができる。 3. 健康臨床心理学の視点から、ストレスについて捉えなおし、その影響について説明することができる。 4. ストレスマネジメントの演習を通じた自身の体験を踏まえながら、ストレスマネジメントのねらいや方法、過程について、説明することができる。 5. 医療現場における対象者の心理的理解や心理支援について、心理療法ごとの特色や支援の留意点などについて説明することが出来る。										
理想的 レベル	標準的レベルに加え、人の健康状態や健康に関する問題について、心理社会的な視点も踏まえたうえで、総合的に捉えることができるようになる。 さらに、人々の健康のための支援について、心理学的な視点から考えることが出来る。										
評価方法・評価割合											
評価方法				評価割合（数値）				備考			
試験				70							
小テスト											
レポート				25							
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物											
その他				5				授業への参加姿勢			
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	WE31416J
学習課題（予習・復習）										1回の目安時間（時間）	
該当箇所の復習										4	
授業計画											
第1回	テーマ：オリエンテーション										

	健康臨床心理学が確立された目的や経緯、その対象等について解説を行う。さいごに、受講学生がどのような領域に関心を抱いているのか感想シートにて問う。
第2回	テーマ：生物心理社会モデル 人の健康を捉えるモデルとして「生物心理社会モデル」を取り上げ、概要を解説する。適宜、個人ワークを実施し、身体と心の両面から人の健康を捉えることの意義について検討する。
第3回	テーマ：ストレスとその影響1 ストレス研究の歴史を紹介し、ストレッサーが人に及ぼす影響のうち主に身体に焦点を当てて解説する。また、心理社会的ストレッサーが身体へ及ぼす影響の一例として「過敏性腸症候群」「起立性低血圧」などの疾患を取り上げ、心理学的視点から解説を行う。
第4回	テーマ：ストレスとその影響2 心理学の視点からストレスを捉えるモデルを紹介し、ストレス反応の個人差について解説する。また、長期的にストレスを抱えることの影響のうち、主に精神的影響を取り上げて解説する。
第5回	テーマ：ストレスマネジメント1 ストレスマネジメントの方法としてマインドフルネスを取り上げ、精神的健康を維持するうえで身体感覚を適切に感受することの重要性について解説する。適宜、個人ワークやグループワークを実施し、マインドフルネスについて体験的に理解を深める。
第6回	テーマ：ストレスとストレスマネジメント2 ストレスマネジメントの方法として漸進的筋弛緩法を取り上げ、身体的緊張が精神的健康へ及ぼす影響について解説する。適宜、個人ワークやグループワークを実施し、漸進的筋弛緩法について体験的に理解を深める。
第7回	テーマ：ストレスとストレスマネジメント3 ストレスマネジメントの方法として臨床動作法を取り上げ、姿勢や動作と精神的健康との繋がりについて解説する。適宜、個人ワークやグループワークを実施し、臨床動作法について体験的に理解を深める。
第8回	テーマ：ストレスとストレスマネジメント4 7回目から引き続き、ストレスマネジメントの方法として臨床動作法を取り上げて個人ワークやグループワークを実施し、臨床動作法について体験的に理解を深める。また、事例呈示を行い、姿勢や動作と精神的健康との繋がりについて理解を深める。
第9回	テーマ：医療領域における対象者の心理的理解 急性期、回復期、慢性期、終末期の経過別に、対象者やその家族が抱きやすい感情などの心理的傾向について解説する。
第10回	テーマ：医療領域における心理支援1 心理療法のひとつである来談者中心療法を取り上げ、医療領域における来談者中心療法に基づいた心理支援の事例呈示を行いながら、概要や留意点などについて解説する。適宜、個人ワークもしくはロールプレイングなどのグループワークを行う。
第11回	テーマ：医療領域における心理支援2

	心理療法のひとつである解決志向療法を取り上げ、医療領域における解決志向療法に基づいた心理支援の事例呈示を行いながら、概要や留意点などについて解説する。適宜、個人ワークもしくはロールプレイングなどのグループワークを行う。
第12回	テーマ：医療領域における心理支援3 引き続き、解決志向療法を取り上げ、医療領域における解決志向療法に基づいた心理支援の事例呈示を行いながら、概要や留意点などについて解説する。適宜、個人ワークもしくはロールプレイングなどのグループワークを行う。
第13回	テーマ：医療領域における心理支援4 心理療法のひとつである認知療法を取り上げ、医療領域における認知療法に基づいた心理支援の事例呈示を行いながら、概要や留意点などについて解説する。適宜、個人ワークもしくはロールプレイングなどのグループワークを行う。
第14回	テーマ：医療領域における心理支援5 心理療法のひとつである応用行動分析を取り上げ、医療領域における応用行動分析に基づいた心理支援の事例呈示を行いながら、概要や留意点などについて解説する。適宜、個人ワークもしくはロールプレイングなどのグループワークを行う。
第15回	テーマ：まとめ これまでの授業内容の振り返りを行う。
テキスト	授業中に適宜資料等を配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	森和代・石川利江・茂木俊彦（編），「よくわかる健康心理学」，ミネルヴァ書房。 宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫（編），「健康・医療心理学」，医歯薬出版株式会社。 日本健康心理学会（編），「健康心理学概論」，実務教育出版。 羽鳥健司（編著），「臨床健康心理学」，ナカニシヤ出版。
課題に対するフィードバックの方法	レポートを通じて出された授業内容に関する質問や感想は、適宜授業内で取り上げて回答を示す。
学生へのメッセージ・コメント	臨床心理学概論、心理学と心理支援Ⅰ、Ⅱを受講していることが望ましい。 授業中に実施されるワークに積極的に参加する姿勢が求められる。